



## 高い土塁に守られた

### 家康忠臣の城

今回は、五井城跡を紹介합니다。五井城跡は、市中心部からやや北東の五井町にありました。城域と思われる場所の中心には古城山真清寺があり、周囲には長泉寺、八幡宮が所在します。

五井城の当主は松平氏でした。松平本家3代目の信光から分かれた家で、五井松平家と称し5代に渡って周辺地域を支配します。特に5代目の景忠は、家康の1歳年上と年齢も非常に近く、主だった戦には必ず従軍しました。武田家との長篠の戦いでは、子の伊昌とともに長篠城の籠城に加わり、武田軍の猛攻を耐え抜いています。五井城跡は、昭和63年まで北側の土塁が一部残っていました。高さ3メートル以上、長さは36メートルにもおよびましたが、その年

の12月に発掘調査を行った後、消滅しました。現在、城跡の名残りを残すものは、外堀の一部と言われる八幡宮南側の御宮池のみです。昨年8月、五井城跡で約30年ぶりに調査を行いました。2平方メートルほどの試掘調査でしたが、柱穴1つと土器小片3点が見つかりました。

五井城跡については、広島市立中央図書館蔵「諸国古城之図 三河五井」のほか、明治時代に描かれた五井周辺の絵図がいくつか残されていますが、発掘成果に乏しく、不明な点が多いため、謎を残す城の一つと言えます。



土塁の調査 (右奥は御宮池)



## 宇宙時代の

### 「春はあけぼの」

—春はあけぼの やうやうしるくなりゆく山ぎは すこしあかりて 紫だちたる雲のほそく たなびきたる —ご存知、清少納言の「枕草子」です。まだ肌寒い早朝、山の頂がかすかに明るくなつてきて、藍色の空に細くたなびく雲も少しづつ赤みを帯び始めています。もう夜明けの、陽のひかりの気配がそこまで来ている…そんな光景でしようか。

先日、ある写真を見たときにふと、この一節が頭に浮かびました。といっても写っているのは山でも空でもなく、宇宙から見た地球です。画面中央には、フレームに切り取られた地球の丸い水平線が太陽光に照らされ、青白く輝いています。そこから夜と昼との境目である日影線に向けて、藍とも紫とも見える美しい色のグラデーションが見えます。その中に、ほんのりと赤みを帯びた雲の影が長く尾を引き、美しい陰影を生み出しています。この光景は、私にとってはまさに宇宙から見た「春はあけぼの」と思われました。

宇宙に季節感はないかも知れませんが、宇宙から見た地球の姿は季節によって変化します。極の水や山脈の頂を覆う雪の形や大きさが変

わるのはもちろん、春先に飛ぶ黄砂、植物の移り変わり、プランクトンの分布の変化、堆積物を含んだ河川の色など、時期により大きく移り変わる光景は、当然ながら宇宙からでも確認することができるのです。旅行気分宇宙に出かけて惑星地球を見上げることのできる未来には、私たちの子孫はどんな名文を生み出すのかしら、などと、曙の空を見上げながら思いめぐらせる春なのでした。



国際宇宙ステーションから撮影した地球 (2011年4月)。美しい拡大写真は「色彩～宇宙から見た地球の姿～」展で!

# 生命の海から

館長 山中敦子

生命の海科学館 ☎ 66♦1717